

モニタリングサイト1000

シギ・チドリ類調査

ニュースレター



モニタリングサイト1000

2019年度秋期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2019年秋期結果の概要

モニタリングサイト1000（以下、モニ1000）シギ・チドリ類調査の2019年度秋期結果概要をお知らせします。



個体数は一昨年レベルに戻る

2019年度秋期調査は、2019年8月1日から2019年9月30日までの期間実施されました。114か所の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査（2019年9月15日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は103か所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類 46種13,902羽、ヘラサギ1羽、クロツラヘラサギ19羽が記録され、秋期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類 52種31,448羽、ヘラサギ4羽、クロツラヘラサギ58羽が記録されました。

2000年秋期以降の「全サイト」と「2000年以降調査が継続されているサイトのみ」の最大個体数の合計を、ヒレアシシギ類を除いてグラフに示しました

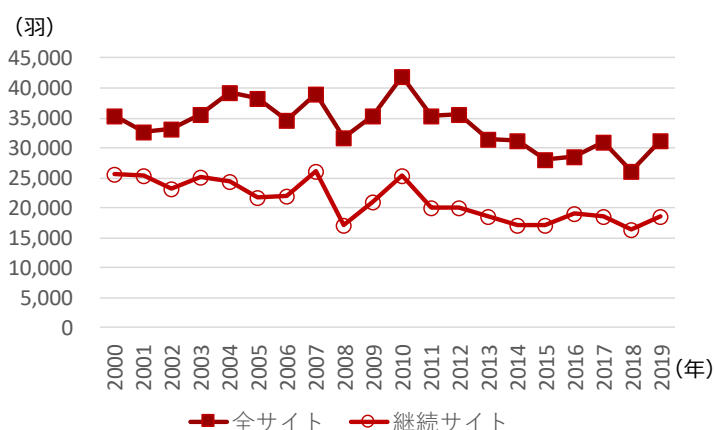


Fig.1. 秋期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移（2000年から2019年の継続サイトN=47）年次変動の大きいヒレアシシギ類は除外

(Fig.1)。2019年秋期の全サイトの最大個体数の合計は、前年度秋期と比べ5,390羽（+20.7%）増加して31,448羽、継続サイトでは前年度秋期と比べ2,286羽（+14.0%）増加して18,671羽となりました。全サイト、継続サイトとともに2018年秋期の結果よりも増加し、2017年とほぼ同等のレベルになっています。

2019年秋期に100個体以上観察された種を抽出した前年度比では、ハマシギ（+1,998羽）、トウネン（+1,694羽）、ソリハシシギ（+1,055羽）の増加数が大きく、増加率でもハマシギは約80%増加していました（Table1）。この個体数の増加には、トウネン、キアシシギ、ソリハシシギの秋期上位種の個体数回復とともに、ハマシギが大きく貢献しています。秋期のハマシギの増加については、調査期間外の10月以降であることが多かった渡来のピークが、早まった可能性が可能性があります（Fig.2）。また、2019年秋には台風

Table 1. 秋期調査における種別の前年比増加数の上位種（2019年秋100個体以上確認された種）

増加数		2018秋期	2019秋期	増加数	増加率
1	ハマシギ <i>Calidris alpina</i>	2406	4404	1998	83.0%
2	トウネン <i>Calidris ruficollis</i>	3768	5462	1694	45.0%
3	ソリハシシギ <i>Xenus cinereus</i>	1809	2864	1055	58.3%
4	キアシシギ <i>Heteroscelus brevipes</i>	2464	3195	731	29.7%
5	オバシギ <i>Calidris tenuirostris</i>	413	774	361	87.4%

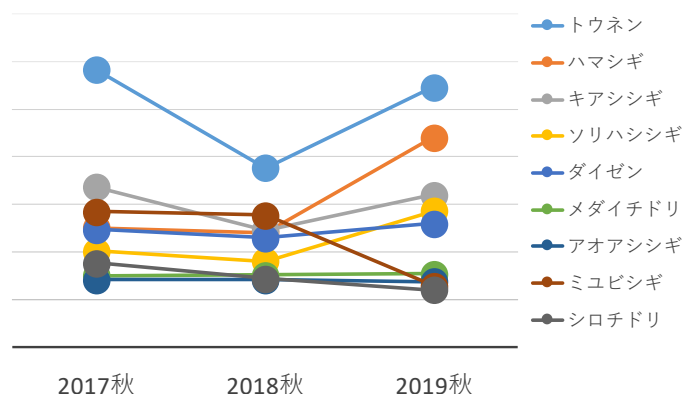


Fig.2. 秋期調査における最大個体数合計上位種の2017～2019年の個体数変化（2019年秋調査で1000個体以上

なども多かったことなどから、渡り途中の個体が留まった可能性も考えられます。

減少数では、ミユビシギ（-1,482羽）、シロチドリ（-245羽）、タカブシギ（-123羽）が減少しており、特にミユビシギは突出して減少しており、半減（-53.5%）していました（Table2）。ミユビシギは2011年頃から減少傾向にあり、注目していく必要があると考えられます。

地域別では、有明海と不知火海が、最大個体数の

Table2. 秋期調査における種別の前年比減少数の上位種
（2019年秋100個体以上確認された種）

減少数		2018秋期	2019秋期	減少数	減少率
1 ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>	2772	1290	-1482	-53.5%
2 シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	1447	1202	-245	-16.9%
3 タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	423	300	-123	-29.1%
4 オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>	192	129	-63	-32.8%
5 ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	313	272	-41	-13.1%

合計で約1.5倍に増加していました。全国を分けした20地域でも、2018年秋期と比較できた19地域のうち12地域で増加していました。一方、北海道東北部、北海道東部、関東太平洋岸、駿河湾、大阪湾周辺と紀伊水道、宮古・八重山の地域で減少しており、特に北海道東北部（-443:-20.3%）、北海道東部（-1,094羽:-41.8%）、関東太平洋岸（-1,807羽:-70.0%）の減少が大きくなっています。トウネンなどの個体数が多かった北海道地域の秋期の減少には、注意していく必要があると考えられます。

コアサイトの一宮川河口（千葉県太平洋岸）でコシジロウズラシギ（英名：White-rumped Sandpiper）が1羽観察されました。北アメリカ極北で繁殖し南アメリカで越冬する種で、日本での観察記録は稀です（タイトル写真）。



調査員インタビュー 奴賀俊光さん

九十九里浜北部サイトの調査を担当し、調査体験イベントも行っている奴賀さんにモニ1000について伺いました。

(1)モニ1000に関わったきっかけ

修士研究のため地元の九十九里浜で鳥類調査を始めたところ、モニ1000の調査サイトに指定されたので、そのまま継続して調査員になりました。

(2)調査について

調査データが地元の自然を守る基礎データとなり、自然の様子を伝える一つの方法になればと思い実施しています。実際、モニ1000のデータをもとに、レッドリストが更新されたり、重要野鳥生息地（IBA）が選定されたりしているので、それが一般の人にもわかるように広報すると、調査員のモチベーションにつながるのではないかと思います。基本的に鳥類観察が好きなので、好きなことをしているついでに何かの役に立つ、ということで継続できています。

複数の生態系の調査が行われているサイトでは、そのサイト内の情報が、メーリングリストなどで共有できると良



Photo1. 調査体験イベントと参加者の様子

いと思います。

(3)調査体験イベントについて

識別の勉強のため等の理由での参加者もありますが、体験後に調査員になり、一斉調査に参加している人もいますので、少しは調査員育成に役立っているのではないかと思います。現在、調査体験イベントについては、実施場所や日時の制限があり、誰でも簡単に参加できるわけではないため、他の調査サイトでも調査体験イベントを実施してほしいと思います。また、モニ1000のほかの生態系調査でも調査に関わることができるイベントを実施し、モニ1000のウェブサイトで紹介するとよいと思います。

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター 2019年 秋期概要

発行元：環境省自然環境局生物多様性センター

編集：特定非営利活動法人 バードリサーチ

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-401-8661

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

<http://www.bird-research.jp/>

メール: shigichi@bird-research.jp